

訳者序

ポアンカレ

アンリ・ポアンカレの哲学上の四部作、「科学と仮説」「科学の価値」「科学と方法」「最後の思想」は既に全部邦訳され、そのうちの二つは、本文庫のうちにもおさめられていますから、多くの読者にとっては、彼の思想は眼新しいものではないと思います。

本書は、彼のいま一つの興味ある著書 *Savants et Ecrivains* を訳したものであります。これは著者が種々の機会にのぞんで書いたり、演説したりした、主として科学者の評伝を集めたものであります。この中に論評せられている科学者は、大部分十九世紀末から二十世紀の初頭へかけて物故した世界的に高名な数学者、天文学者、物理学者及び生物学者等であります。従つて本書は、これ等の諸科学の発達史上に於ける最も興味ある時期の鳥瞰図を与えています。しかもこの鳥瞰図の作製者たる著者ポアンカレ自身は、近代科学の最も基本的なる諸部門を通じての第一流の学者でありました。かかる偉大なる精神にしてはじめて、かくの如き多方面の学者を、かくもあますところなく理解することができたのです。

ポアンカレは科学者としてすぐれていたと同時に思想家としてもすぐれていました。数ある浩瀚なる専門著書のほかに、前記の四著述は思想家としての彼の偉大さを十分に示すものであります。本書に於ても彼の素晴らしい思想、科学者にして科学を批判し、科学を批判しつつも科学の価値を見誤らなかつた偉大なる思

想の片鱗を随所に見ることができません。

彼がアカデミー入会の際にものしたシュリイ・プリユウドムに関する評伝は、彼が、芸術に対しても並々ならぬ観賞力をもっていたことを示しています。彼は多くの著書で、好んで、科学者の心境と芸術家の心境とを比較していますが、彼自身優秀なる科学者にして、また優秀なる芸術家であったのです。

彼の平易明快なる名文は定評のあるところではありますが、それを、訳者の不敏のためにぎごちない邦文に移してしまったことは深くはじ入る次第であります。しかも誤訳も亦少なくないであろうと思います。大方の示教を仰いで、せめて、この点だけでも大過なからしめたいと希望するものであります。

順序は原文と同じではありませんが、少しも省略されている箇所はありません。原文の順序にも大して意味はないようではありますが、訳文の順序にも意味は全くありません。ただ訳者がこの二年間に気の向くままに翻訳したのから印刷にまわしていったのです。

原文の多くが演説でありますから、その語調を保存する意味で、口語文に訳しました。そのために多少表現が冗長になったことをおそれますが、そのためにいくらかでも平易になったとしたら望外のしあわせです。最後に、岩波氏を通じて、本書の原文を貸与して下さった理学博士小倉金之助先生の好意を深く感謝するものであります。

昭和三年三月十五日

小石川水道橋にて

平林初之輔

- ポアンカレ著・平林初之輔訳『科学者と詩人』（岩波書店、岩波文庫、昭和二十一年第十二刷）所収。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に、旧かなは新かなに変更し、適宜振り仮名をつけた。ただし、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- PDF化には \LaTeX 2 ϵ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。